

向田邦子の原点をさぐる

～没後20年展～



期間:2001年11月24日(土)～12月8日(土)

会場:香雪記念館資料室・展示ホール、向田邦子文庫

主催:実践女子大学図書館、香雪記念資料館専門委員会

略歴

昭和四年(一九二九年)十一月二八日、東京府荏原郡世田谷町生まれ。実践女子専門学校卒業後、映画雑誌の編集者のかたわら、昭和三年頃から市川三郎氏に師事し、ラジオ、テレビの台本を書く。昭和三年のテレビドラマ「七人の孫」で売れっ子となり、以後、「だいこんの花」(昭和四年)、「寺内貫太郎一家」(昭和四九年)、「阿修羅のごとく」(昭和五四年)、「あ・うん」(昭和五五年)、「隣りの女」(昭和五六年)などのドラマで高視聴率作家の座を維持し続けた。書いたテレビドラマの脚本は一、〇〇〇本以上に上り、ラジオに関しては一〇、〇〇〇本を越えるという莫大な数になる。絶妙なセリフ、巧みな構成で「向田ドラマ」と呼ばれ、現在隆盛のホームドラマの基礎をきずいた。また、PR誌に連載した明治生まれの父親像を描いたエッセイ「父の詫び状」で作家としてもデビュー。昭和五年には独特の感性で書いた短編「花の名前」「かわうそ」「犬小屋」(「思い出トランプ」所収)で第八三回直木賞受賞。鋭い人間観察にもとづく描写が特徴で、小説家としても高い評価を得る。

昭和五六年八月二二日逝去。享年五一歳。昭和五八年にはすぐれた脚本に与えられる「向田邦子賞」が創設された。

「向田邦子」の誕生



「卒業アルバム」より

目 次

「向田邦子」の誕生	1
映画ストーリー 編集者時代	2
もしかして、ペンネームの由来は	3
シナリオライターとしての原点	4
作家としての原点	9
直木賞受賞	11
向田邦子文庫所蔵自筆原稿と遺品	13
向田邦子の手料理	14
愛用の品々	16
語り継がれる向田邦子 ～向田邦子研究の参考に～	17
卒 業 論 文 ～若い研究者たち～	19
海外における向田邦子	21
向田邦子文庫	25
向田邦子全著作	26

向田邦子は昭和4年（1929）11月28日に父・向田敏雄、母・せいの長女として東京府荏原郡世田谷町若林86番地（昭和7年、東京都世田谷区となる）に生まれる。父の仕事の関係で、生まれたときから社宅暮らしで、転校の繰り返しであったという。小学校だけで、宇都宮、東京、鹿児島、四国の高松と4回変わっている。8歳（2年生）の時に肺門淋巴腺炎を患う。3年生の終学期、父の転勤で鹿児島へ転居。暖かい気候と新鮮な空気に健康も回復。茶目っ気のある利発で、かけっこの早い少女に成長した。

昭和17年、香川県立高松第一高等女学校に入学。転勤で東京へ戻った一家と離れ、はじめて下宿生活を送る。2学期より東京の目黒高等女学校に編入した。戦争の激化のなか19年には軍需工場に動員される。昭和20年3月の東京大空襲に逃げ惑うが、かろうじて向田家と隣組の一角は焼け残った。

昭和22年4月、父の勤めで実践女子専門学校（現・実践女子大学）国語科に入学。仙台へ転勤となった家族と再び離れて、弟保雄と港区麻布市兵衛町の母方の祖父宅に寄宿した。

実践女子専門学校 国語科卒業時の肖像（昭和25年） 写真パネル
昭和20年代 実践女子学園校舎 写真3葉

鹿児島市立山下小学校時代（昭和15年） 写真パネル
漱石全集 <旧蔵書 D-1007～1024>
岩波書店 1974-76 18冊

「大人の本を読むことを覚えた」のは小学校5年生、鹿児島時代のことだという。「夏目漱石全集」、「世界文学全集」などを家族の目を盗んで鹿児島にいた足かけ三年の間にほとんど読んだという。

映画ストーリー 編集者時代

昭和 27 年 5 月 21 日雄鶏社に入社、「映画ストーリー」編集部配属された。6 月に発売される創刊号が編集されたばかりで、さっそく第 1 巻 2 号の編集から参加した。以来、昭和 35 年 12 月 24 日付けで退職するまで計 114 冊（10 巻 3 号 昭和 36 年 3 月号まで）の編集に携わった。

後の、向田作品に登場する様々なモチーフが「編集後記」欄にすでにちりばめられているのわかる。また、向田文学における映像性や小道具への目配りのよさは、長年ラジオ、テレビの仕事をつづけたことによるのはもちろんだが、それ以前の「映画ストーリー」の編集者時代に仕事と映画そのものを通じて培われていたともいえる。

昭和 35 年 5 月には、甘糟幸子氏らと女性三人のフリー・ライター事務所「ガリーナクラブ」を開き「週刊平凡」「週刊コウロン」他でルポ・ライター、アンカー・ライターなどを勤めるようになり、「昼は出版社につとめ、夕方からは週刊誌のルポ・ライター、そのあい間にラジオの原稿を書く」という生活を送ることとなった。

映画ストーリー 雄鶏社

編集後記

- 1 巻 4 号（昭和 27 年 10 月） 入社 1 ヶ月...
- 8 巻 2 号（昭和 34 年 2 月） 万年筆の話...
- 8 巻 5 号（昭和 34 年 5 月） 爪や鉛筆のしっぽをかじる...
- 9 巻 6 号（昭和 35 年 6 月） 上野たま子女史の後記を受けて...

週刊コウロン 中央公論社

- 2 巻 31 号（昭和 35 年 8 月 9 日） p54～57
- “60 年型情事の演技法” 幸田みや子 署名記事

「週刊コウロンという雑誌で“人妻のよろめき”を特集したことがありましてね。扉の写真用に、ホテルのロビーで人妻が男と密会する場面が必要になった。人妻のモデルを買って出たのがなんと向田さん本人。当時としては珍しいサングラスをかけ、日活ホテルで撮影しました。相手役の男性をどうしようといったら、『うちの父、呼んでよいか』なんて.....もちろん実現しませんでしたけど」(甘糟幸子)

(『向田邦子ふたたび』文藝春秋 臨時増刊 1983.8 より)

もしかして、ペンネームの由来は...

「幸田みや子」の署名

その頃私は、特派記者「幸田邦子」という名刺を使っていました。気の早い人が、「幸田文さんのお嬢さんですね」

というので、「とんでもありません」というのに大汗を掻いていました。

(モンロー・安保・スーダラ節『女の人差し指』より)

「幸田」

向田家のルーツが、石川県七尾湾に浮かぶ能登島の“向田”と書いて“こうだ”と読む集落であることからとったものと思われる。

「みや子」

なぜ「みや子」なのかと思い、「邦子」は他になんと読むのだろうと大漢和辞典(諸橋轍次著 大修館書店刊)を引いてみると

「邦」 ハウ(ホウ) くに。 みやこ。 諸侯の封土。 天下。 くににする。 封ずる。 あに。 あね。 ...という意味があることがわかった。

「向田邦子という人は機知に富んでいる。言葉の使い方がイキでしゃれている」と秋山ちえ子氏が向田さんとルーツ探しの旅に能登島へ同行した記事のなかで述べている。(『向田邦子ふたたび』文藝春秋 臨時増刊 1983.8)

新婦人 文化実業社

- 16 巻 4 号（昭和 36 年 4 月）

「映画と生活 大いに盗みましょう。ただし...」向田邦子著

映画からモードを吸収する(自分のものにする)7 か条について向田が書いている。同様な記事が、『映画ストーリー』6 巻 9 号(昭和 32 年 6 月)の編集後記にもある。

映画の友 映画の友社

- 29 巻 10 号（昭和 36 年 8 月） スターとペット 向田邦子
- 29 巻 12 号（昭和 36 年 10 月）

シナリオライターとしての原点

生前、雑誌の対談で「重役——」は絶品だった、愛聴者だったとおっしゃるゲストに、彼女はあの台本の山は家を引っ越すときにすべて捨ててしまった、考えると何かの足しになったかもしれないと残念がっていました。

邦子さん。幸い自宅の資料室から「重役——」の台本がほぼ全冊そっくり見つかりました。

とにかく台本類は、散逸しやすいものです。先年、私はそれらをまとめて、向田さんの母校、実践女子大学の図書館に託しました。

（「森繁久彌『向田邦子』を語る」より抜粋 『森繁の重役読本』収録）

森繁の重役読本 <B-1> シナリオ （森繁久彌氏よりの寄託資料）
東京放送、毎日放送 1962.3.5～1969.12.27
205冊 26cm
作：向田邦子 出演：森繁久彌 企画制作：毎日広告社

昭和37年3月～昭和44年12月の7年間、2,448回もの台本を単独で執筆。
放送局と時間に移動があったが、概ね日曜を除く毎朝8時45分から5分間放送された。
森繁久彌氏朗読による連続ラジオ・エッセイである。脚本家としての本格的デビュー作であり、後に花開く向田文学のエッセンスが詰まっている。
森繁久彌氏が保存されていた台本の寄託を受け、散逸を免れた205冊（1981回分）が本学図書館に保存されている。森繁氏の書込みが随所に見られる。

森繁の重役読本 <A-50> 図書
東京 ネスコ 1991.7.29
237p 19cm

六つのひきだし 「森繁の重役読本」より <A-53> 図書
東京 ネスコ 1993.10.29
221p 19cm

放送台本からそれぞれ71編、66編を選び、再編集・出版したもの。
森繁氏はこれらの作品について「普通のひとの暮らしのなかから、人間のもつ情けなさ、俗物根性、弱さをそっと取り出して、悪意なく俎上にのせて好意的に料理する」といった向田の熟練技の萌芽が読み取れると語っている。文庫版は文春文庫で刊行されている。

七人の孫 <B-3> シナリオ （森繁久彌氏よりの寄託資料）
TBS 1964.1.6～7.6、1965.6.7～1966.12.28
初編第6回 続編第3,6,10,17,19,24,30,36回 放送分のみ 26cm
脚本：向田邦子ほか 原案：源氏鶏太 演出：山本和夫ほか
出演：森繁久彌、大坂志郎、加藤治子、長谷川哲夫、稲垣美穂子、勝呂誉、松山英太郎、いしだあゆみ ほか
提供：松下電器、松下電工

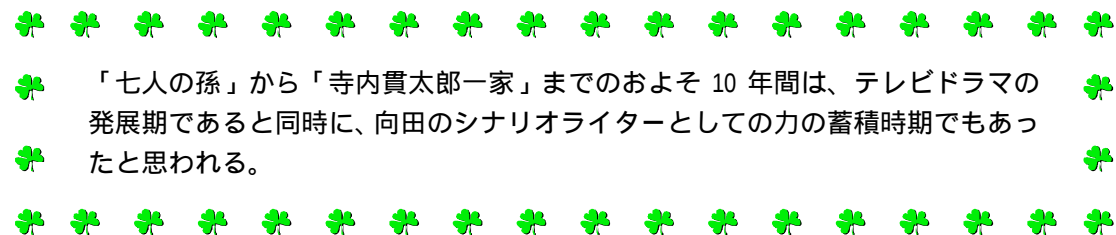
初編が昭和39年1～6月、続編が昭和40年6月～昭和41年2月に放送された。松下幸之助氏にくどかれた森繁久彌氏が、連続テレビドラマに初出演。50才で70才の老け役に挑戦した。明治大正昭和の親子三代の物語。大家族ホームドラマの先駆けとなった。1時間ドラマの黎明期にあたる作品。2回シリーズで合計65回放送され、平均30%の高視聴率を上げた。複数作家の共同執筆で、向田は初編で1回、続編で8回執筆した。「重役読本」で向田の才能を認めた森繁氏がピンチライターとして紹介したのがきっかけだった。この作品あたりから本格的にテレビドラマ脚本を書き始め、シナリオライターとしての地歩を確立してゆく。

奇妙な仲 <B-33> シナリオ
TBS（東京放送） 1969.4.16～6.25（全10回）
4冊（第4,6,9,11回放送分のみ） 26cm
脚本：向田邦子 原作：芝木好子 演出：鴨下信一
出演：新珠三千代、池部良、吉田次昭、仲谷昇
提供：トヨタ、花王

仲のよい中年夫婦と、妻のいとことの愛すべき“三角関係”をコミカルに描いた作品。
シナリオは古書店から入手したもの。表紙の文字から池部良氏が使用したものと思われる。池部氏の書込みが数多くあり、ドラマ作りの現場を彷彿とさせる。

イヤデスさん <B-32> シナリオ
MBS（毎日放送） 1969.11.11～12.30（全8回）
8冊（第1～8回） 26cm
脚本：向田邦子 原作：里見弴『釜芋さん』より 演出：不明
出演：新珠三千代、池部良、井上孝雄、春川ますみ

版画意外に何も分からない男やもめの巨匠の元に、未亡人が内弟子として住み込んだ。
ライトコメディ。
シナリオは古書店から入手したもの。表紙の書き込みから池部良氏が使用したものと思われる。一部破損、ページが脱落している。
「奇妙な仲」と同様に原作（小説）に基づく脚本であり、代表作ではないが、現存している貴重なシナリオ資料である。



「七人の孫」から「寺内貫太郎一家」までのおよそ 10 年間は、テレビドラマの発展期であると同時に、向田のシナリオライターとしての力の蓄積時期でもあったと思われる。

時間ですよ 昭和元年 <B-34> シナリオ
TBS（東京放送） 1974.10.16～1975.4.9（全 26 回）
4 冊（第 15,16,21,23 回放送分のみ） 26m
脚本：向田邦子ほか 演出：久世光彦
出演：森光子、荒井注、千昌夫、浅田美代子、悠木千帆（樹木希林）
提供：トヨタ自動車、花王石鹸

昭和初期の銭湯が舞台。息子が今まで隠していた恋人を連れてきて騒動が始まる。
共同執筆作品。向田の執筆は 13 回分（第 1～3,9,11～13,15,16,18,21,23,25 回）であった。

寺内貫太郎一家 2 <B-35> シナリオ
TBS（東京放送） 1975.4.16～11.5（全 30 回）
3 冊（第 17,18,22 回放送分のみ） 26cm
脚本：向田邦子 演出：久世光彦、服部晴治
出演：小林亜星、加藤治子、谷隼人、風吹ジュン、樹木希林ほか

前年に放映され、テレビ大賞を受賞したシリーズの続編。昔気質で怒りっぽいくせに涙もろい「日本の父」貫太郎とその家族が織りなす下町人情コメディ。続編では長男が婦女暴行未遂で執行猶予中という身の上で、それを取り巻く家族の愛と苦しみを明るく描いた。
向田が乳癌の告知を受け、放送中の 10 月に入院・手術となった。向田の依頼により最終回は久世光彦が執筆した（ペンネーム林紫乃）。

寺内貫太郎一家 <A-1> 図書
サンケイ新聞社出版局 1975.4
318p 19cm （サンケイノベルス）
装幀・イラストレーション 横尾忠則

シリーズ 1 作目のノベライゼーション。向田の初めての単行本である。
帯（部分）：日本人の 5 人に 1 人が見ている大評判のテレビ・ドラマの原作！
地震！ カミナリ！ 火事！ 貫太郎！ 女房がなんだ！ おやじを尊敬しない息子など、ぶっ飛ばせ！ 痛快無比 - - - 石屋の寺内貫太郎一家がまき起こす笑いと涙の人情巨篇！

寺内貫太郎一家 <A-20> 図書
新潮社 1983.1
255p 20cm
装幀 山藤章二
初版はサンケイ新聞社出版局 1975 年刊

帯：向田邦子の処女長編 著者・向田邦子の父親をモデルに、愛すべき日本の お父さんと、その家族を描く。東京の下町に暮らす庶民の真情溢れる生活記。
貫太郎のモデルは、私の父向田敏雄である。よくどなり、よく殴り、五年前にボックリ亡くなった。生きている時は、反発もし憎みもしたが、そこは血のつながりで、いなくなってみると妙に懐かしい。供養の気持ちも手伝って、お線香代りに、ちょっぴり「立派な男」に仕立て直してお目にかけた……。 （1975 年「著者のことば」より）

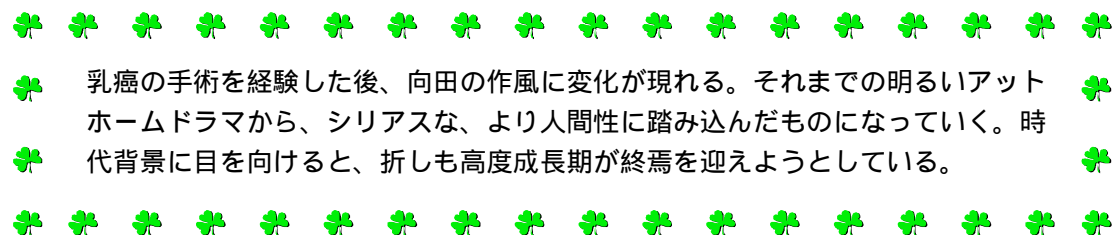
寺内貫太郎一家 前篇，後篇 <A-43，44> 図書
大和書房 1987.12-1988.1
2 冊 20cm （向田邦子 TV 作品集 10,11）

シリーズ 1 作目（昭和 49 年 1～10 月放映）の全 39 回のうち、26 回分のシナリオを収録。
帯（部分）：<読んで面白いシナリオ文学>。絶妙なト書き、躍動する会話、その全てに向田邦子の魅力が横溢しています。小説に勝るとも劣らない感動をお約束します。

寺内貫太郎一家 ビデオカセット
制作発売：TBS、文藝春秋 VHS カラー 95 分 （向田邦子ノ傑作ドラマシリーズ）
「周平の恋」「静江の嫁入り」の 2 編を収録

冬の運動会 シナリオ
TBS（東京放送） 1977.1.27～3.31（全 10 回）
10 冊（第 1～10 回） 26cm （木下恵介・人間の歌シリーズ 24）
脚本：向田邦子 演出：服部晴治
出演：根津甚八、いしだあゆみ、志村喬、木村功、加藤治子

厳格な家風を守る家柄。主人公の青年は高校時代の万引きがもとで、父親、祖父から疎んじられるているが、ふとした事から靴屋の夫婦の家に入り浸り、擬似親子を演じるようになる。やがて父にも、祖父にも自宅とは別に自分をさらけ出せる別な「家」があることがわかる。家族とは何であろうかと問いかけている。



乳癌の手術を経験した後、向田の作風に変化が現れる。それまでの明るいアットホームドラマから、シリアスな、より人間性に踏み込んだものになっていく。時代背景に目を向けると、折しも高度成長期が終焉を迎えようとしている。

冬の運動会 <A-13> 図書
大和書房 1982.5
246p 20cm (向田邦子TV作品集3)

帯(部分): 人生の岐路に立つ青年が「青春」という季節を走る。父親と祖父もまた、裏道づたいに愛のすみかへ走る。——行きづまった青年の目がとらえた様々な愛のかたち、人間の醜さとやさしさ。「青春という一季節」の光と影をくっきりと描いた長篇傑作。

隣の女 - 現代西鶴物語 - <B-22> シナリオ
TBS(東京放送) 1981.5.1
1冊 26cm (TBS特別企画・西武スペシャル)
脚本: 向田邦子 演出: 浅生憲章
出演: 桃井かおり、根津甚八、林隆三、浅丘ルリ子

実践女子専門学校在学中、向田の恩師は近世文学・西鶴研究の大家、暉峻康隆先生であった。「好色五人女」を現代になぞらえたというこのドラマの生まれる背景に、学生時代の勉強があるのではないだろうか。
平凡な日常を生きる人妻が、ひょんなことから非日常の世界へ踏み込み、恋の逃避行に走る。ふとした偶然から非日常を生きることになり、また日常に帰ってくる女を描いている。円熟期の代表的傑作、そして最後のドラマ作品となった。

隣の女 <A-8> 図書
文藝春秋 1981.10
253p 20cm
装釘 中川一政

シナリオ完成後、ノベライズされ、『サンデー毎日』1981.5.10号に掲載された。その後、短小説五篇を収録として、没後に刊行された。
内容: 隣の女 幸福 胡桃の部屋 下駄 春が来た

源氏物語・隣の女 <A-38> 図書
大和書房 1987.1
220p 20cm (向田邦子TV作品集8)

先に発表された小説版「隣の女」と比べると、分量的には倍以上あり、ト書き、ナレーション(主人公)の見事さなど、シナリオならではの魅力に溢れている。

隣の女 ビデオカセット
制作発売: TBS、文藝春秋
VHS カラー 102分 (向田邦子/傑作ドラマシリーズ)

昭和56年度芸術祭優秀賞受賞

作家としての原点

銀座百点 雑誌
銀座百点会 1976.2.1~1978.6.1 13×19cm

255号(1976.2.1) p60~65
「わが人生の『薩摩揚』」
注記「父の詫び状」所収時は『薩摩揚』と改題

268号(1977.3.1) p18~23
「海苔巻の端っこ」

269号(1977.4.1) p18~23
「心に残るあのご飯」
注記「父の詫び状」所収時は『ごはん』と改題

1975年10月に乳癌手術を受けた向田は、右手が使えないなどの後遺症があり「あまり長く生きられないのではないか」と考えていた。そんな時、事情を知らない編集者が原稿を依頼しに訪れた。
「考えた末に、書かせて戴くことにした。
テレビの仕事を休んでいたので閑はある。ゆっくり書けば左手で書けないことはない。こういう時にどんなものが書けるか、自分をためしてみたかった。テレビ・ドラマは、五百本書いても千本書いてもその場で綿菓子のように消えてしまう。気張って言えば、誰に宛てるともつかない、のんきな遺言状を書いて置こうかな、という気持ちどこかにあった。」(『父の詫び状』あとがきより)
隔月で昭和53年6月まで24回続き、大変に評判になった。この連載が作家としての出発点になった。

父の詫び状 <A-2> 図書
文藝春秋 1978.11
278p 20cm
装幀 江島任

戦前の昭和の庶民生活を描いたこのエッセイは、その時代を知っている人にも、戦後生まれの人にも懐かしさを感じさせた。戦前という時代の忘れてはいけぬもの、厳しいけれど家族思いの父親像が共感を呼んだ。

父の詫び状 ドラマスペシャル <B-31> シナリオ
NHK 1986
1冊 26cm
原作：向田邦子 脚本：ジェームス三木 演出：深町幸男
出演：杉浦直樹、吉村実子、長谷川真弓、沢村貞子

父の詫び状 <C-769> 芝居パンフレット
松竹 1995.1
1冊 26cm (松竹百年記念南座 1 月公演)
原作：向田邦子 脚本：金子成人 演出：深町幸男
出演：杉浦直樹、藤村志保、高橋かおり、藤間紫

あ・うん <a-64> 雑誌
別冊文藝春秋 151 号 p200～231
文藝春秋 1980.3.5

唯一の長編小説「あ・うん」の初出誌である。掲載に至るいきさつを、編集長だった豊田健次氏は次のように語っている。
「向田さんは長編小説を書いてみたいけれど自信がないとおっしゃる。NHKに渡してある「あ・うん」というドラマの試写会があるので、一緒に観て欲しい。豊田さんがいいと思ったら書きます、ということだった。試写を観ると、文句なしの名作だった」
(2001.10.20 向田邦子研究会主催「向田邦子没後 20 年記念講演会」の講演より)

あ・うん <A-6> 図書
文藝春秋 1981.5.20
243p 20cm
装釘 中川一政

帯：NHK テレビドラマ化(「人間模様」) 向田邦子初の長篇小説 ひとりの女をはさんで
微妙なバランスを保つその夫と親友との間に結ばれた不思議な友情 初の長編小説

あ・うん 芝居パンフレット
松竹 2001.10
1冊 30cm (丸井創立 70 周年スペシャル)
原作：向田邦子 脚本：金子成人 演出：末木利文
出演：杉浦直樹、愛川欽也、倍賞千恵子、波乃久里子、浅井江理名

直木賞受賞

第 83 回 (昭和 55 年) 直木賞を受賞。小説家としても高い評価を得る。

【直木賞受賞作品の初出】

小説新潮 雑誌
新潮社 1980.4.1 ～1980.6.1 21 cm

34 巻 4 号(通巻 430 号) p198～204 <d-109>
「花の名前」 思い出トランプ 第 3 話

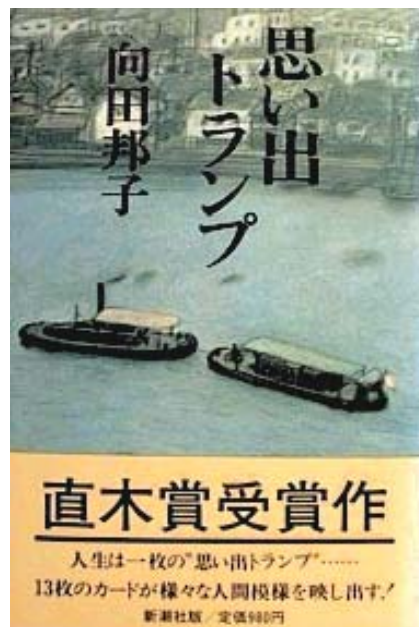
第 34 巻 5 号(通巻 431 号) p108～114 <a-70>
「かわうそ」 思い出トランプ 第 4 話

第 34 巻 6 号(通巻 432 号) p78～84 <a-71>
「犬小屋」 思い出トランプ 第 5 話

連載中の短篇小説が直木賞を受賞することはそれまでにないことだったが、選考委員の山口瞳氏、水上勉氏の強い推薦によって受賞が決まった。
掲載誌「小説新潮」編集長は実践時代の向田の同級生、川野黎子氏であった。
氏は向田の作品について、次のように語っている。
「シナリオ、エッセイ、小説のいずれにも共通するのが、まず構成の確かさ、起承転結のうまさ、それから文章のリズム感、これは目で追っても、耳で聞いても抜群です。それから比喩の巧みさ、これは優れた感性と、物を見る目の確かさの証拠です。上質のユーモア、そして一番大切なテーマです。向田さんの作品に共感を覚える人が多いのは、(中略) 普通の人の日常をとらえて、しかもその裏にある人間の弱みや、ずるさ、恐ろしさを、どぎつくなく、意地悪でなく書いているのです。(中略) こういうテーマの設定がこれまでの作家と違って向田さんを際立たせている大きな特徴です。」
(『実践女子大学・短期大学後援会会報』40 号 p117～133 より)

思い出トランプ <A-5> 図書
新潮社 1980.12.25
230p 図版 20cm
装幀・插画 風間完

思い出トランプ 向田邦子直木賞十周年記念ドラマ <B-20> シナリオ
TBS（東京放送） 1990.9.21（前編） 9.28（後編）
2冊 26cm
原作：向田邦子（「だいこんの月」「男眉」「だらだら坂」などより） 脚本：寺内小春
演出：久世光彦
出演：田中裕子、小林薫、加藤治子、洞口依子



帯のことばより

直木賞受賞 向田邦子の = 第一創作集

誰もが気付かずに見すごしている人生の情景
を切り取り、静止した時間の中に鮮やかな一枚
の絵として映し出す



向田邦子文庫所蔵自筆原稿と遺品



- 自筆原稿 「鮎」 『男どき女どき』第1話
小説新潮 35巻7号（昭和56年7月）初出
- 鉛筆削り（TOMBOW PENCILS sr1300）
削りカスもそのままに...
- ウィスキー瓶（“Ne Plus Ultra” ネ・プラス・ウルトラ）
ジョン・デュワー社の最高級ウィスキー。アルコール分43%、容量760ml。
ネ・プラス・ウルトラとは、“No.1” という意味
- 盃（底に「さつま岩切作」「正錫」の刻印あり。岩切美巧堂の薩摩錫器）
（有）岩切美巧堂
鹿児島県国分市中央4丁目18-2
TEL 0995-45-0177
FAX 0995-45-3243

向田邦子の手料理

何かの間違いで、テレビやラジオの脚本を書く仕事をしているが、本当は、板前さんになりたかった。

（「板前志願」より 『女の人差し指』収録）

包丁とぎ器 遺品

ナショナル電気包丁とぎ器 MODEL No.KJ-20K

向田邦子の手料理 向田和子監修・料理製作 < C-537 >

東京 講談社 1989.6

131p 26cm

たのしいフランス料理 辻静雄著 <旧蔵書 D-1055>

東京 婦人画報社 1967.11

270p 22cm

よそでおいしいものを頂いて、「うむ、この味は絶対に真似して見せるぞ」という時、私は必ず決まった姿勢を取ることにしています。全身の力を抜き、右手をこめかみに軽くあてて目を閉じます。レストランのざわめきも音楽も、同席している友人達の会話もみな消えて、私は闇の中にひとり坐って、無念無想でそのものを味わっているというつもりになるのです。どういうわけか、この時、全神経がビー玉ほどの大きさになって、右目の奥にスウッと集まるような気がする、「この味は覚えたぞ」ということになります。（…中略…）ただひとつ、どこからどう取りついたらいいのか途方に暮れた味がありました。

五年ほど前にパリで食べたペッパー・ステーキにかかっていたソースです。(…中略…)

私はフランス料理の本をめくり、辻静雄著「たのしいフランス料理」の中に、このソースの作り方が出ていることをつきとめました。

(「幻のソース」より 『眠る盃』収録)

石井好子のヨーロッパ家庭料理 石井好子著 <旧蔵書 D-385>

東京 文化出版局 1976.7

194p 24cm

基礎日本料理 土井勝著 新版 <旧蔵書 D-521>

東京 柴田書店 1967.9

11,272p 27cm

マリーおばさんのフランス家庭料理 唯松太郎訳 <旧蔵書 D-625>

東京 文化服装学院出版局 1969.2

21,471p 20cm

おばんざい 京の味ごよみ 朝日新聞京都支局編 <旧蔵書 D-759>

神戸 中外書房 1966.8

301p 18cm

沖縄の行事料理 松本嘉代子著 <旧蔵書 D-769>

那覇 月刊沖縄社 1978.1

127p 26cm



【包丁とぎ器】

愛用の品々

● バッグ 3 点

黒いバッグ (CHANEL フランス製)
澤地久枝 「旅の断章」からのスナップ パネル
(『向田邦子ふたたび』文藝春秋臨時増刊より)

茶のバック (LONGHI イタリア製) 長年使われていた
愛用品 パネル
(『向田邦子を旅する』より)

黒いエナメルバック 中の仕切がおしゃれ

● マーガレット (肩掛けセーター) 甘粕幸子氏寄贈

ショールの変形マーガレットは、妹さんに編んでもらって、多くの人の肩を温めた。
甘糟さんの勘違いから別名エリザベスともいう。
(向田邦子の手紙 クロワッサン別冊より)

思い出の「エリザベス」 パネル
クロワッサン 2 巻 3 号 (1978.3.1)

甘糟幸子氏宛書簡 複製写真
マーガレット説明書

● 丸い革ざぶとん 南青山のマンションで愛用された革座布団

[南青山の部屋で革座布団を足に敷いている向田の写真] パネル
(『向田邦子ふたたび』文藝春秋臨時増刊より)

● 万年筆 (ウォーターマン) 手帳 (エルメス) 名刺、葉巻入れ

万年筆は、向田保雄氏が使用していたものを、先が丸く (柔らかく) なって使いやすくなったのをみはからって、保雄氏にねだったもの。葉巻入れも、当時 40 代の保雄氏には、まだ早いからと言って、とりあげたもの。

● 書かれなかった原稿用紙

—もし、向田さんが執筆を続けていたらどんな作品が生まれていたのでしょうか—

【原稿用紙 5 種】 用途によって使い分けていたのか...

B5 20×10 たて・よこ 5 字ごとに数字 左下に＜向田邦子稿箋＞とある
B5 20×10 左下に＜向田邦子用箋＞とある
B4 15×20 上部が字枠無し 左下に＜向田邦子用箋＞とある
B4 20×20 右上に KM のイニシャルがデザインして入っている
B4 20×10 20×10 の二枠 左下に＜向田邦子用箋＞とある

語り継がれる向田邦子

～ 向田邦子研究の参考に～

姉貴の尻尾 向田邦子の思い出 向田保雄著
文化出版局 1983.8 222p 20cm <C-165>
講談社 1993.5 233p 15cm (講談社文庫) <C-723>

向田邦子・映画の手帖 二十代の編集後記より 向田邦子著 上野たま子、栗原敦編
徳間書店 1991.3 187p 18cm <C-642>

触れもせで 向田邦子との二十年 久世光彦著
講談社 1992.9 222p 18cm <C-690>

向田邦子のこころと仕事 父を恋ふる 平原日出夫著
小学館 1993.8 239p 20cm <C-736>

向田邦子テレビドラマ全仕事 東京ニュース社編
東京ニュース通信社 1994.10 133p 25cm <C-759>

かけがえのない贈り物 —ままやと姉邦子— 向田和子著
文藝春秋 1994.12 230p 20cm <C-765>
文藝春秋 1997.11 254p 16cm (文春文庫) <C-842>

娘の眼—向田作品における父親像— 木戸みどり著
近代文芸社 1995.1 76p 19cm <C-773>

夢あたたかき 向田邦子との二十年 久世光彦著
講談社 1995.10 191p 18cm <C-790>

向田邦子の全ドラマ —謎をめぐる 1 2 章— 小林竜雄著
徳間書店 1996.3 312p 19cm <C-801>

向田邦子 心の風景 松田良一著
講談社 1996.6 338p 20cm <C-806>

向田邦子最後の炎 小林竜雄著
読売新聞社 1998.6 243p 20cm <C-851>
中央公論新社 2000.10 268p 16cm (中公文庫) <C-909>

向田邦子熱 向田邦子研究会編
いそづぶ社 1998.12 231p 19cm <C-860>

向日葵と黒い帽子 上野たま子著
KSS 出版 1999.1 191p 18cm <C-864>

向田邦子の青春 写真とエッセイで綴る姉の素顔 向田和子著
ネスコ 文藝春秋 (発売) 1999.4 182p 22cm <C-874>

向田邦子・家族のいる風景 実践女子大学・実践女子短期大学公開市民講座 平原日出夫編著
清流出版 2000.4 252p 20cm < C-873 >

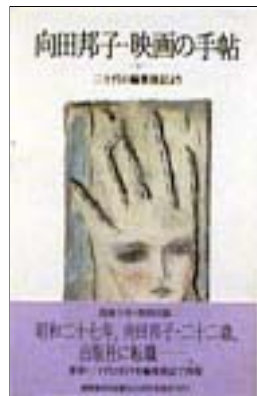
向田邦子鑑賞事典 井上謙、神谷忠孝編
翰林書房 2000.7 445p 20cm < C-877 >

メルヘン誕生 向田邦子をさがして 高島俊男著
いそっぷ社 2000.7 278p 20cm < C-899 >

向田邦子ワールドの進化 没後 20 年を迎え、今初めて明かされるドラマと小説の謎 小林竜雄著
小学館 2000.8 333p 15cm (小学館文庫) < C-902 >

向田邦子を旅する クロワッサン特別編集
マガジンハウス 2000.12 201p 30cm (Magazine House mook) < C-910 >

花の名前 向田邦子漫画館 向田邦子 [原作] 柴門ふみ著
新潮社 1999.8 191p 21cm < C-882 >



卒業論文 ～若い研究者たち～

【展示資料】

昭和 63 年 (1988 年)

向田邦子と『思い出トランプ』

徳永 静 (法政大学)

平成元年 (1989 年)

向田邦子論 - 長女の文学—

野口 仁子 (実践女子大学 国文学科)

向田邦子研究

佐久間 明子 (実践女子大学 国文学科)

向田邦子論 —長女の鎧—

川久保 圭子 (相山女学園大学)

平成 2 年 (1990 年)

向田邦子とその作品について

廣田 美穂 (中央大学 文学部)

平成 3 年 (1991 年)

向田邦子の世界の人々 —『父の詫び状』における登場人物の分析—

永田 幸子 (共立女子大学 文芸学部)

平成 4 年 (1992 年)

向田邦子作家論 —家族を中心に—

西村 律子 (近畿大学 文芸学部)

向田邦子文学における 現在・過去・未来

島村 香苗 (近畿大学 文芸学部)

向田邦子の世界 —その作品をめぐって—

亀谷 奈津子 (近畿大学 文芸学部)

平成 5 年 (1993 年)

向田邦子の遺書 —『父の詫び状』と『男どき女どき』をめぐって—

大島 みゆき (近畿大学 文芸学部)

向田邦子論 —シナリオから小説へ—

宮内 弘子 (近畿大学 文芸学部)

向田邦子論 第一創作集『思い出トランプ』を中心に

仲野 香 (近畿大学 文芸学部)

平成 6 年 (1994 年)

向田邦子論 —短編小説集をめぐって—

森下 佐代 (近畿大学 文芸学部)

向田邦子研究 —父との関係を中心として—

吉村 里香 (青山学院大学 文学部)

平成 8 年 (1996 年)

向田邦子のレトリック辞典

秋本 詩絵 (早稲田大学)

平成 12 年 (2000 年)

韜晦と開示の向田文学論 —短編集『思い出トランプ』に託したもの—

齋藤 佳子 (実践女子大学 文学部)

向田邦子研究 —小説とシナリオと—

鷺沼 江里子 (相模女子大学)

実践女子大学文学部国文学科 卒業論文

= 向田邦子に関する論文 =

年 度	論 題	氏 名	ゼミ名
昭和 5 9 年度 (1984)	向田邦子論	中戸川恭子	
平成元年度 (1989)	向田邦子研究論	岩原貴子	栗原ゼミ
	向田邦子研究	佐久間明子	栗原ゼミ
	向田邦子研究 食の観点から	西村いずみ	栗原ゼミ
	向田邦子論 長女の文学	野口仁子	栗原ゼミ
平成 2 年度 (1990)	向田邦子研究	宮下久美子	栗原ゼミ
平成 3 年度 (1991)	向田邦子ドラマ研究	浅井美菜	栗原ゼミ
	向田邦子の作品における昭和の家族論	茨木ユカ	栗原ゼミ
平成 4 年度 (1992)	「寺内貫太郎一家」会話文にみる言葉使いと人物造型	小林真由美	
	向田邦子「幸福」論	進藤尚子	栗原ゼミ
	言葉における女らしさについて —向田邦子の作品から—	灰野絵美	
平成 5 年度 (1993)	向田邦子研究	池橋嘉代	栗原ゼミ
	向田邦子研究	水谷紀子	栗原ゼミ
	向田邦子研究	森 篤子	栗原ゼミ
平成 6 年度 (1994)	向田邦子研究 —家族熱を中心に—	神尾恭子	栗原ゼミ
平成 8 年度 (1996)	向田邦子の作品の会話に見られる終助詞について	杉村朗子	
平成 1 0 年度 (1998)	向田邦子研究 『家族熱』を中心に	羽田由紀	栗原ゼミ
	「う」からはじまる文学 - 向田邦子一家—	牧野恭子	棚田ゼミ
平成 1 1 年度 (1999)	向田邦子研究 —家族像を中心に—	徳永 綾	栗原ゼミ
	向田邦子「あ・うん」研究		栗原ゼミ
平成 1 2 年度 (2000)	現代ドラマシナリオに見られる性差について	田中麻由美	
	韜晦と開示の向田文学論 —短編集『思い出トランプ』に託したもの—	齋藤佳子	棚田ゼミ

海外における向田邦子

A deck of memories / Kuniko Mukoda ; translated by Adam Kabat
Tokyo : Kodansha International, 1992 160 p. ; 15 cm < A-210 >

* 「思い出トランプ」より 9 篇の翻訳

• The otter	かわうそ
• The upstairs window	はめ殺し窓
• Manhattan	マンハッタン
• The doghouse	犬小屋
• Men's brows	男眉
• The daikon moon	大根の月
• The sour-smelling family	酸っぱい家族
• The names of flowers	花の名前
• “I doubt it”	ダウト

The name of the flower : stories / by Kuniko Mukoda ; translated from the Japanese by Tomone Matsumoto
Berkeley : Stone Bridge, c1994 152 p. ; 22 cm < A-211 >

* 「思い出トランプ」より 1 0 篇、「男どき女どき」より 3 篇の翻訳

• The name of the flower	花の名前	「思い出トランプ」より
• Small change	だらだら坂	
• I doubt it	ダウト	
• The otter	かわうそ	
• Manhattan	マンハッタン	
• Beet shoulder	三枚肉	
• The doghouse	犬小屋	
• The fake egg	嘘つき卵	「男どき女どき」より
• Triangular chop	三角波	
• Mr. Carp	鮒	
• Ears	耳	「思い出トランプ」より
• Half-moon	大根の月	
• The window	はめ殺し窓	

Menteur! / Mukoda Kuniko ; récits traduits du japonais par Louise Boudonnat et Harumi Kushizaki
Arles : P. Picquier ,c2000 96 p. ; 21 cm

「思い出トランプ」より 6 編の翻訳

• La loutre	かわうそ
• La longue pente	だらだら坂
• La lucarne	はめ殺し窓
• Graisse de bœuf	三枚肉
• Le Manhattan	マンハッタン
• Menteur!	ダウト

「だらだら坂」 原文（日本語）と英語訳・独語訳の比較 ノパネル
 日：だらだら坂 向田邦子著（「思い出トランプ」より）
 英：Small Change translated by Tomone Matsumoto
 （“Name of the flower”より）
 独：Der sanfte Abhang Übersetzung von Wolfgang Bergmann
 （秋田大学教育学部研究紀要 人文・社会科学 第38集より）

直木賞作家 向田邦子代表作 / 向田邦子著，程義翻譯
 台北 星光出版社 民國70年（1981） 2, 2, 295p. 19cm

『父の詫び状』より 24 編の翻訳

・魚的眼睛	魚の目は泪
・學生・冰淇淋	学生アイス
・壽司	海苔卷の端っこ
・拍照片	記念写真
・隔壁の神廟	隣りの神様
・父親的懺悔	父の詫び状
・身體髮膚	身体髮膚
・車上的談話	車中の皆様
・最後午餐	ごはん
・小丑殉情記	お軽勘平
・矮子	あだ桜
・兔子和烏龜	兎と亀
・芳鄰	隣の匂い
・細長的大海	細長い海
・大的和小的	チーコとグランデ
・小火焰	ねずみ花火
・孩提時代之夜	子供たちの夜
・鼻梁紳士錄	鼻筋紳士錄
・鞠躬	お辞儀
・零食時間	お八つの時間
・耐人同味的加哩飯	昔カレー
・蛋和我	卵とわたし
・炸薯片	薩摩揚
・我的自白	あとがき

『思い出トランプ』より 3 編の翻訳

・花的名字	花の名前
・水獺	かわうそ
・狗的小屋	犬小屋

『女の人差し指』より 1 編の翻訳

・人的食指	クラシック
-------	-------

父親的道歉信 向田邦子著 陳鵬仁譯著

台北 水牛出版社 民國87年（1998） 2,2,241 p 19cm

日本語書名：父の詫び状

『父の詫び状』より翻訳

・父親的道歉信	父の詫び状
・身體髮膚	身体髮膚
・紀念照片	記念写真
・鞠躬	お辞儀
・孩子們晚上	子供たちの夜
・細長的大海	細長い海
・車中百態	車中の皆様
・老鼠烟火	ねずみ花火
・海苔壽司的邊邊	海苔卷の端っこ
・學生賣冰淇淋	学生アイス
・魚眼睛是淚	魚の目は泪
・隔壁的香味	隣りの神様
・兔子與海龜	兎と亀
・我的拾遺集	わが拾遺集
・鼻梁紳士錄	鼻筋紳士錄
・炸魚醬條	薩摩揚
・雞蛋與我	卵とわたし

『夜中の薔薇』より翻訳

・直木獎颱風	直木台風
--------	------

附錄：日本的文學獎 陳鵬仁著

Japanese women writers : a bio-critical sourcebook / edited by Chieko I. Mulhern

Westport : Greenwood, 1994 524 p. ; 25 cm

Includes bibliographical references (p. [506]-508) and index < C-767 >

* p. 248-257, 345 … Mukoda Kuniko (1929-81) / Paul McGrath の項にて紹介

< Bibliography >

・Translations

“Doubt” Tr. Dan Seymour

Japan Quarterly vol. 31, no.3(July-September 1984) p.281-87

“Manhattan” Tr. Adam Kabat

The Magazine vol. 2, no. 11(December 1987)

“The river otter” Tr. Marian E. Chambers

Japan Quarterly vol. 33, no.(July-September 1986) p.320-27

・Critical Works

Niyekawa, Agnes K. “Analysis of conflict in a television home drama”

Conflict in Interpersonal Relations

Honolulu : University of Hawaii Press 1975 p.61-84

Japanese women novelists in the 20th century : 104 biographies 1900-1993 /
Sachiko Schierbeck
Museum Tusculanum Press ; University of Copenhagen, 1994 378 p. ; 24 cm
Includes bibliographical references (p. 353-356, [379]-) and indexes < C-768 >

- * 7. Writers who explore the human psyche and the sense of alienation
in the 1970s (p. 254-256 … Mukooda Kuniko (1929-1981))の項にて紹介
< Works translated into Western languages >
A deck of memories (A-210)
“Doubt” by Dan Semour (Giwaku)
Japan Quarterly vol. 31, no.3 1984 p. 281-187
“Jedlo” by Dana Hasimitova Domikova
Revue Svetovej Literatry vol. 23, no. 1 1967 p. 81-86
“Manhattan” by Adam Kabat (Manhattan)
The Magazin vol. 2, no. 11 1987 p. 50-54
“Postkarten ohne Worte” by Ray Genenz (Ji no nai hagaki)
Hefte fur Ostasiatische Literatur vol. 8 1989 p. 77-80
“The river otter” by Marian E. Chambers (Kawauso)
Japanese Qualterly vol. 33, no. 3 1986 p. 320-327
“Der sanfte Abhang” by Wolfgang Bergmann (Namerakana saka)
Akita daigaku kyooikugakubu kenkyuu kiyoo 1988
“Der stumme Zeuge” by Heike Boudalfa-Paesler (Funa)
Zeit der Zikaden. Japanisches Lesbuch.
Erzahlungen der Gengenwart
Munchen : Piper 1990 p. 91-103

The Oxford book of Japanese short stories / edited by Theodore W. Goossen
Oxford ; New York : Oxford University Press , 1997 xxxi, 452 p. ; 22 cm

・ Mr.Carp Translated by Tomone Matsumoto p 334-343

A history of Japanese television drama : modern Japan and the Japanese /
Kazuhiko Goto. [et al.]
Tokyo : Japan Association of Broadcasting Art : Distributed by Kaibunsha, 1991
viii, 231 p. : ill. ; 22 cm
日本語書名：日本テレビドラマ戦後史 / 後藤和彦, 佐多真徳, 平原日出夫編

東方女性的文化立場 - 論向田邦子 孫歌著
學人 THE SCHOLAR 第5輯
江蘇 江蘇文芸出版社 1994.2 p91-114 20cm < C-746 >

小荳荳的朋友 黒柳徹子著 李 常傳訳
台北 小暢書房 民國 81 年 (1992) 201p 21cm (黒柳徹子作品集 7)
日本語書名：トットのマイ・フレンズ
p147 ~ 160 : 向田邦子

向田邦子文庫

文庫概要

向田邦子文庫は、向田家のご厚意と、関係者の尽力により 1987 年に、実践女子大学図書館の一隅に開設された。

本学卒業生(昭和 25 年卒)であり第 83 回直木賞(1980 年)を受賞した向田邦子氏(1929 - 82 年)の旧蔵書を基に著作(図書の初版、初出掲載雑誌)、シナリオ類、参考文献(関連記事、図書)を収蔵している。

向田さんが生前使用していた、テーブル・イス・留守番電話・ヒーター
(向田保雄氏より寄贈)

向田邦子文庫目録データベース

文庫所蔵の、著作文献・参考文献・旧蔵書を検索できる。



〔向田文庫全景〕

向田邦子全著作

(刊行年順)

寺内貫太郎一家 サンケイ新聞社出版局 昭和 50 年 4 月 29 日

父の詫び状 文藝春秋 昭和 53 年 11 月 25 日

眠る盃 講談社 1979 年 10 月 16 日

無名仮名人名簿 文藝春秋 昭和 55 年 8 月 1 日

思い出トランプ 新潮社 昭和 55 年 12 月 25 日

あ・うん 文藝春秋 昭和 56 年 5 月 20 日

霊長類ヒト科動物図鑑 文藝春秋 昭和 56 年 9 月 1 日

隣りの女 文藝春秋 昭和 56 年 10 月 30 日

夜中の薔薇 講談社 1981 年 10 月 30 日

阿修羅のごとく 向田邦子 TV 作品集 1 大和書房 1981 年 12 月 10 日

父の詫び状 文春文庫 文藝春秋 1981 年 12 月 25 日

幸福 向田邦子 TV 作品集 2 大和書房 1982 年 3 月 10 日

冬の運動会 向田邦子 TV 作品集 3 大和書房 1982 年 5 月 10 日

蛇蠍のごとく 向田邦子 TV 作品集 4 大和書房 1982 年 6 月 15 日

眠る盃 講談社文庫 講談社 昭和 57 年 6 月 15 日

家族熱 向田邦子 TV 作品集 5 大和書房 1982 年 7 月 15 日

男どき女どき 新潮社 昭和 57 年 8 月 5 日

女の人差し指 文藝春秋 昭和 57 年 8 月 5 日

向田邦子全対談集 世界文化社 昭和 57 年 8 月 23 日

寺内貫太郎一家 新潮社 昭和 58 年 1 月 25 日

寺内貫太郎一家 新潮文庫 新潮社 昭和 58 年 3 月 25 日

あ・うん 文春文庫 文藝春秋 1983 年 4 月 25 日

思い出トランプ 新潮文庫 新潮社 昭和 58 年 5 月 25 日

無名仮名人名簿 文春文庫 文藝春秋 1983 年 8 月 25 日

夜中の薔薇 講談社文庫 講談社 昭和 59 年 1 月 15 日

隣りの女 文春文庫 文藝春秋 1984 年 1 月 25 日

霊長類ヒト科動物図鑑 文春文庫 文藝春秋 1984 年 8 月 25 日

阿修羅のごとく 新潮文庫 新潮社 昭和 60 年 2 月 25 日

男どき女どき 新潮文庫 新潮社 昭和 60 年 5 月 25 日

冬の運動会 新潮文庫 新潮社 昭和 60 年 7 月 25 日

女の人差し指 文春文庫 文藝春秋 1985 年 7 月 25 日

幸福 新潮文庫 新潮社 昭和 60 年 10 月 25 日

向田邦子全対談 文春文庫 文藝春秋 1985 年 12 月 25 日

家族熱 新潮文庫 新潮社 昭和 61 年 1 月 25 日

蛇蠍のごとく 新潮文庫 新潮社 昭和 61 年 3 月 25 日

だいこんの花 前篇 向田邦子 TV 作品集 6 大和書房 1986 年 9 月 10 日

だいこんの花 後篇 向田邦子 TV 作品集 7 大和書房 1986 年 11 月 10 日

源氏物語・隣の女 向田邦子 TV 作品集 8 大和書房 1987 年 1 月 25 日

あ・うん 向田邦子 TV 作品集 9 大和書房 1987 年 6 月 5 日

向田邦子全集 第 1 ～ 3 巻 文藝春秋 1987 年 6 月 30 日

寺内貫太郎一家 前篇 向田邦子 TV 作品集 10 大和書房 1987 年 12 月 5 日

寺内貫太郎一家 後篇 向田邦子 TV 作品集 11 大和書房 1988 年 1 月 30 日

だいこんの花 前篇 新潮文庫 新潮社 平成 3 年 2 月 25 日

だいこんの花 後篇 新潮文庫 新潮社 平成 3 年 2 月 25 日

源氏物語・隣の女 新潮文庫 新潮社 平成 3 年 4 月 25 日

あ・うん 新潮文庫 新潮社 平成 3 年 7 月 25 日

森繁の重役読本 ネスコ 1991 年 7 月 29 日

六つのひきだし 「森繁の重役読本」より ネスコ 1993 年 10 月 29 日

忍宿借 夫婦巷談 せい子 宙太郎 上 向田邦子原作 ラインブックス 1994 年 4 月 30 日

忍宿借 夫婦巷談 せい子 宙太郎 下 向田邦子原作 ラインブックス 1994 年 4 月 30 日

せい子・宙太郎 上 向田邦子原作 文春文庫 文藝春秋 1996 年 7 月 10 日

せい子・宙太郎 下 向田邦子原作 文春文庫 文藝春秋 1996 年 7 月 10 日

眠り人形 向田邦子原作 文春文庫 文藝春秋 1996 年 8 月 10 日

愛という字 向田邦子原作 文春文庫 文藝春秋 1996 年 9 月 10 日

六つのひきだし 「森繁の重役読本」より 文春文庫 文藝春秋 1997 年 4 月 10 日

向田邦子映画の手帖 徳間文庫 徳間書店 1996 年 1 月

きんぎょの夢 向田邦子原作 文春文庫 文藝春秋 1997 年 8 月 10 日

平岩弓枝・向田邦子 女性作家シリーズ第 11 巻 角川書店 1997 年 10 月 27 日

冬の運動会 向田邦子原作 文春文庫 文藝春秋 1998 年 1 月 10 日

蛇蠍のごとく 向田邦子原作 文春文庫 文藝春秋 1998 年 8 月 10 日

阿修羅のごとく 向田邦子原作 文春文庫 文藝春秋 1999 年 1 月 10 日

桃から生まれた桃太郎 向田邦子原作 文春文庫 文藝春秋 1999 年 8 月 10 日

家族熱 向田邦子原作 文春文庫 文藝春秋 2000 年 7 月 10 日



《参考にした資料》

- ・向田邦子の手紙（クロワッサン別冊）
- ・向田邦子ふたたび（文藝春秋臨時増刊）
- ・向田邦子の世界 - 没後十年 いまふたたび
- ・向田邦子のテレビドラマ全仕事
- ・向田邦子・映画の手帖
- ・向田邦子を旅する
- ・テレビドラマデータベース（<http://www.tvdrama-db.com/>）
- ・向田邦子賞（東京ニュース通信社）
（http://www.tokyonews.co.jp/mukouda_pages/mukouda.html）

* 展示した大型パネルは、朝日広告社寄贈のものを使用しました。

表紙：向田文庫所蔵資料（遺品、著作、向田用箋等）

2001 年 11 月 22 日印刷 2001 年 11 月 24 日発行

向田邦子の原点を探る

～ 没後 20 年展 ～

発行 実践女子大学図書館

東京都日野市大坂上 4 - 1 - 1

〒191-8510 Tel 042-585-8829

<http://www.jissen.ac.jp/library/mukoda/>
